
VOCALOIDに仲間入り！？

鈴兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

VOCALOIDに仲間入り!?

【Nコード】

N2579BA

【作者名】

鈴兎

【あらすじ】

突然だけど私と私の友達がVOCALOIDになっちゃた!しかも実体化もできるんだよ!!驚きだよね!!!それでねそれでね!なんとミクちゃんやリンちゃんやレンくんやメイコちゃんやカイトくんやその他亜種の人もね実体化できるんだよ!元人間の私と友達も驚いたけどね!マスターのほぅがもつと驚いたんだよwwwでも人生楽しかったら何でもokだよね!!!

始まりは突然の雷とノイズから

最初に言っておこう私は天才だと

まだ16才にもなって間もない私はある実験に成功したのだ！

『ふふふ……やっと……やっと逃げ出せる！』

こんなダメな現実リアルから！

『ああそつだ！歌波かなみを呼ばなきゃ……ふふふきつとビックリするぞつ
』！

最初に言っておこうウチの友達は馬鹿だと
勉強の方ではなく性格の方で馬鹿なのだ

p r r r r r p r r r r r p r r r r r p r r r r r

突然自分の携帯が鳴る

『誰やねんこんな夜中に……………』

画面には馬鹿と名前が出ていた

『……………』

着信拒否つと…ウチは携帯をベットに放り込み本を読んだ

p r r r r r p r r r r r p r r r r r p r r r r r

また携帯が鳴った今度は無視する

p r r r r r p r r r r r p r r r r ……

あきらめたようだウチは小走りで玄関に向かい扉に鍵をかける
数秒後ドンドンという音がしたたぶん馬鹿の奴だろう

『歌波ちゃーん！開けてー！ほらっアイスあげるからさあ！』

『うっさいわ梨恋……………何味なん？』

『ミント味と苺味とチョコ味ー！』

『……………なら入りたい』

『あざーすー！』

馬鹿改め梨恋^{りれん}はアイスを冷蔵庫にしまい
ウチの部屋へ勝手に入っていく

『でっ。』

『へ？何？？』

『用はなんなん？』

『ああ！そうだった！歌波にね見せたいものがあるんだあ！』

ちよっと待ってと言い梨恋はもってきた鞆から見せたかったもの
だす

それはいわゆるヘッドフォンマイクのようなものが2つ
1つは白一色のものでもう1つは黒一色のものだった

『ただのヘッドフォンマイクやん？』

『ふふふふ……これはなんと！』

『なんと？』

『次元を飛ぶことができる装置なのだ！』

『……………』

ついに手が付けられなくなったか……………

梨恋の両親へすいません梨恋が壊れました

いやいやよく考えてみ？

普通次元を超えることはできへんよ！？

ましてや16才の高校生がつくるもんじゃないだろ

しかもよくありそうなヘッドフォンマイクにやで？！

そんなん…そんなん…そんなんって……………

『梨恋………おまえ………天才やんっ!!』
『えへへーそれほどでもー』

梨恋は照れながらヘッドフォンマイクをウチと自分につけて
スイッチのようなものを取り出した

………ん？

『ちよっと待ちい梨恋』

『ん？どつたの？』

『まさか………本気で行くん？』

『え？うん、そうだけど？』

ほらもう準備もできたしと指をさしたのは大きめのカバンが三つあ
った

『歌波のぶんも入ってるから安心』

『安心 じゃないわ馬鹿!』

『もう!大丈夫だつて!スイッチオン!』

『え!?!もういくん?!?!』

梨恋がスイッチを押すとヘッドフォンマイクが光だし
ズツとかザーというノイズが流れ出した

.....あれ？

『何も.....おこらへんで？』

『あつれー？なんでだろ？うまくいくと思ったのに？』

『ほんなら.....失敗なん？』

『.....うん』

梨恋は認めたくないような顔をして頷いた

『うーん？なんでかな？.....』

『まあまあ梨恋いまは原因を考えんのはやめてアイス食べようや』
『んー.....』

ありゃりゃ梨恋聞いてない

まあいいやアイス取りにいこ

『何味にしよ……………ん?』

あれ?雨降ってるしかもどしゃぶりだし雷もなってる……
さっきまで晴れてたのに変なの……………

『梨恋、何味にする?』

『ん……………莓』

『はいはい』

ウチは莓味のアイスとスプーンを梨恋に差し出す
梨恋は黙々と味を堪能せず食べていく
ちなみにウチはもともと家にあつたブドウ味

『……………ごちそうさま…あれ?雨降ってる?』

『食つのはや……………うんさっきからな』

『へ……………傘忘れた』

『じゃあ泊まってくか?布団余ってるし』

『へ?いいの?』

『うん』

『じゃあそつするねー』

というわけで梨恋は今日お泊りすることになった

ピカッドシヤアアアアア!……………!!

『『つぎや!?!』』

突然雷が落ちてきたそのせいで家のブレーカーが落ちる

『ビックリしたあ!雷落ちたねwww』

『笑ってる場合か!ブレーカー落ちてしもたやん』

ジジッザーザージジジジズズツ

||||||||||||エラーが発生しました||||||||

突如ヘッドフォンマイクからノイズが鳴り響き
よくわからないがエラーがでた

『梨恋!?何なん?!』

『わ、わからないよ!?!』

だんだんとノイズが大きくなっていく

うるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさい

普通にヘッドフォンマイクをとればいいのだが思考がうまく働かない

します 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

プー
プー
プー

……次に

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 システム完了これより異次元に飛ばします 〓 〓
〓 〓 〓 〓 〓

……目を覚ました時

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 異次元まで十秒前 〓 〓 〓 〓 〓 〓

……ウチ達は

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 9 …… 8 …… 7 …… 6 …… 5 …… 〓 〓 〓 〓 〓 〓

……ここにはおらず

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 4 …… 3 …… 2 …… 1 …… 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

……数字だらけの所で

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 それではいつていつしゃい 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

……
……
歌をうたっているだろう

始まりは突然の雷とノイズから（後書き）

ミク、リン・ミク（リン）達が出てないー！

鈴兎・wwwしょうがないよ一話目は主人公2人だけつてきめて
たもんwww

ミク・次ミク達出るよね?!ね?!

鈴兎・んー次の次かな?

リン・えーなんで!

鈴兎・次は主人公2人とマスターとミク達の自己紹介!書くのわす
れてたてへぺろ

ミク、リン・……………（スッ）

鈴兎・ふ、2人もおなんで私に石を向けるのかなあ?…………ぎざ
ああああ!!!!!!

歌波・……………それじゃあ!

梨恋・また次の話でお会いしましょう!

歌波、梨恋・ばいばい

鈴兎・え!?なんで歌波ちゃんと梨恋ちゃんが閉めるの?!…………ぎ
やああああ!!!!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2579ba/>

VOCALOIDに仲間入り！？

2012年1月6日16時48分発行